

第2回策定委員会の意見整理

議題（1）10年後の目指す将来像について （2）施策の現状と課題について

No	区分	策定委員会における主な意見（要旨）	主な論点と、検討・対応の方向
1	事業承継・廃業の施策について	事業承継や廃業はマイナスなイメージが多いが、事業承継は決してマイナスではない。前向きな事業承継、明るさを出す事業承継の施策をいれてほしい。	事業承継は、会社の想いや技術などを未来につないでいく手法であり、前向きな言葉で表現していく。
2	目指す将来像について	施策の方向性の3つの柱を意識しているのであれば、それぞれの柱の要素を入れて、キャッチフレーズを作るとよいのではないか。	本日の議題「産業振興の新たな指針（骨子案）について」で説明。 【資料3 参照】
3		これまで商店街活動をする中で、挑戦する事業者を応援する区の施策について、身をもって体験してきた。「挑戦する事業者」という言葉は良いと思う。	
4		事業者に向けて、わかりやすいキャッチフレーズが良い。	
5		台東区は地場産業、中小企業が多いという特徴があるが、一般的なフレーズだと衰退の集積に捉えかねないので、もっと楽しい明るい産業という捉え方ができるフレーズが良い。	
6		10年後は、グローバルな人が増えたり、若者の創業が活発化するなどの時代につながるので、カタカナを入れた方がいいのではないか。	
7		サステイナブルという言葉は、事業の承継や持続という意味もあるので、サステイナブルを入れてはどうか。	

No	区分	策定委員会における主な意見（要旨）	主な論点と、検討・対応の方向
8	目指す将来像について	伝統的な商売をしているところも、裏側に行くとテクノロジーを活用している。そのような古いものと新しいものを織り交ぜたようなキャッチフレーズが面白いのではないか。	本日の議題「産業振興の新たな指針（骨子案）について」で説明。 【資料3 参照】
9		文化、伝統、商店街、寺社仏閣など、そういったものを有効に活用するという政策のキャッチフレーズを作ってもらいたい。	
10		台東区の産業、中小零細の企業の皆さんの方向性がひとつに定まるようなキャッチフレーズになると良い。	
11	その他	SDGsは国連が定めた2030年までに達成すべき目標であり、数年後には後継のキャッチフレーズが出てくる可能性が高い。10年の計画であれば、そのような単語は使わない方が良い。	2025～2027年度ごろに、後継のキャッチフレーズがでる可能性があるため、そのような単語の使用には留意する。